

体験ダイビング指導基準

a. 指導資格

JEFF ダイブマスター以上の資格を持つ者

b. 特別注意事項

体験ダイビングの目的は、安全に楽しく受講生を水中世界に案内することにある。

1、体験ダイビングでは、知識、スキルが参加者全て同等ではない点や、年齢層が幅広いなどがあることを考慮しスキル提供することが必要。

2、水中ではすべての受講生が確実に目視できる範囲での行動が必要であり、受講生から目を離さないこととする。又、常に緊急時に必要な処置がとれる体制を取ることも必要。

3、体験ダイビング中における指導員のカメラ持参は、一般名称のポケットカメラ（水中ハウジング内臓含む）に一切のアクセサリを付けることなく、使用目的は受講生の記念的な画像を撮ることを主たる目的とし、指導員が受講生を視野に入らない状況で、他の画像（水中生物など）を撮ることは禁止する。

4、他の指導コースと体験ダイビングの同時エントリー開催は認めない。

c. 制限人数

1、指導員 1 名について最大同時潜水2名

2、ダイブマスター管理下においても、最大同時潜水 2 名までとする。

3、補佐がいるときは、最大同時潜水は 4 名とすることが出来る。補佐の資格はダイブマスター以上とする。

c. 受講年齢

10 歳以上（20 歳未満は全て親の同意が必要）

（ただし現場において父兄の同意があり、また受講する本人が器材を使用出来る十分な体力を有し、且つその器材が本人の体に合ったものであり、また危険について十分理解出来る者であれば、年齢制限未満でも受講することが出来る。）

d. 体験ダイビング実技提供に伴う指導内容

下記内容については、特性から実施場所において屋内屋外問わず、実施することが出来る。

1. 陸域において、参加者名簿について必要事項を記入する

伴うリスクについて説明、理解した署名を必要用紙に記入保存

2. 健康状態についてのチェック、理解した署名を必要用紙に記入保存

3. 水中における環境的、生理的、物理的に陸上との違いの理解とそれに伴う必要器材等の説明。

1) 水圧……………肺の過膨張について、呼吸の仕方、耳抜き必要性

2) 音……………音の伝わり方

3) 光の屈折……………物の見え方、見える大きさ等

4) マスククリアーの必要性と方法

5) 耳ぬきの必要性と方法

6) 水中サインの必要性と方法

7) 使用する全ての器材の使用目的と使用目的の説明

講習内容の確認テストは、試験用紙もしくは口頭での確認を行う。

5. 実技の講習

プールもしくは限定水域（ボート等では、緊急時に対応できる海域とする）にて以下の練習を行う。

スキル練習方法について、陸上シュミレーションの場合、水面にてスキル確認を行うことを条件とする

1) 耳抜きの方法

（陸上シュミレーションの時は、水面にてスキル確認）

2) マスククリアーの方法

（陸上シュミレーションの時は、水面にてスキル確認）

3) 呼吸の方法

（陸上シュミレーションの時は、水面にてスキル確認）

4) レギュレータークリアーの方法

（陸上シュミレーションの時は、水面にてスキル確認）

5) レギュレーターリカバリーの方法

（陸上シュミレーションの時は、水面にてスキル確認）

6) BC (BCD) の使用法

（陸上シュミレーションの時は、水面にてスキル確認）

7) 総合した器材の使用法

講習内容の確認テストは、試験用紙もしくは口頭確認、目視での技術確認を行う。

6. 上記、各項目終了後、オープンウォーターにて講習を行う

7. 流れのまとめ

1) 受付…必要事項の記入、リスクの説明、健康状態の調査

2) 学科講習

3) 器材説明

4) その他現地においての必要事項説明

5) ディブリーフィング……体調の再確認

8. 体験ダイビングの水域設定について

安全確保を確実にできる水域とし、最大深度 10m 以内とする。